



### Café JAPONES

- DE -  
**K. UCHINO**  
 Las Heras 667 - Tucumán



カフェ  
 ハポネス  
 内野 清  
 ツクマン市  
 ラス・エラス街六六七

### KATSUDA y Cia

IMPORTADORES



U. T. 38 Mayo 2313  
**Calle MEXICO 1474**  
 Buenos Aires

### Sadao Hattori

IMPORTADOR

Especialidad en artículos de  
**CEPILLERIA**

**Calle LINIERS 649**  
 U. T. 45, LORIA 3218  
**BUENOS AIRES**

### TALLER GRAFICO NIPPON

**Santiago del Estero 975**  
 U. T. 23 - 7864

西文活版印刷  
 便箋・封筒・名刺  
 其他各種  
 技術優秀・迅速確実  
 價格低廉  
 電話にて御一報次第  
 券上致します  
 ニッポン堂印刷所  
 北川 稔

### TINTORERIA "BOTAFOGO" DE K. FUNAI

Tefir trajes y vestidos . . . . . \$ 8.-  
 Planchar trajes . . . . . \$ 2.-  
 Sombreros . . . . . \$ 0.70  
 Consultar precios en las mismas  
**SALON DE ESPERA**

**ENTRE RIOS 215 - U. T. 38, Mayo 7740**  
 Suc. Sarmiento 1900  
 U. T. 47 (Cuyo) 0984

帽子洋服クリーニング  
 最新のシステムに依り最も  
 迅速廉價に仕上げます  
 テイントレリア  
 ホタフストロ  
 本店市内エストリオリオ街三五  
 電話マヨ七四〇番  
 支店市内カニエド街一九〇  
 電話クイヨ九八四番  
 府内喜平

### GRAN BAR COLON de Manuel Gomez

御酒其他の御飲料は  
 一切品質本位  
 正真正銘保証付  
 午五時よりヴァリエ丁  
 同幕ニ組のオルケスタ  
 は「タンゴ」と「ジャズ」の曲目  
 取りませ毎夜一時まで大  
 車輪で演奏致します

**Leandro N. Alem 622**  
 U. T. 31 (Retiro) 1828

### JIRO HONDA & Hno.

Importadores de Artículos Generales del Japón

**Belgrano 847 - Buenos Aires**  
 U. T. 38 - Mayo 2718

### TINTORERIA "SAGA"

**"SAGA"**

**MEXICO 1424**  
 U. T. MAYO 1259

### FAURE y Cia.

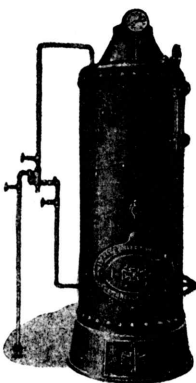
Importación directa de Ho-  
 landa, Bélgica, Francia, Ale-  
 mania, N. América, etc., de  
 各種 輸入販賣  
 BULBOS  
 PLANTAS  
 SEMILLAS EN GENERAL  
 PAPAS  
 VIDRIOS, Etc.

**Paseo Colón 560 - 68**  
 BUENOS AIRES  
 U. T. 1714, Avenida

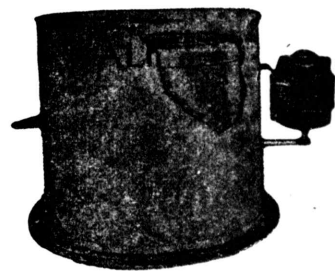
CALDERA LOOKOUT  
 De Construcción Vertical  
 y Horizontal

### ALFA-LAVAL S. A.

CENTRIFUGA ALFA  
 Accionada por Motor  
 Eléctrico



世界に名を博す  
 アルファ印洗濯器を  
 テイントレリア経営の日本人  
 諸君に御薦めいたします  
 服地の損傷皆無  
 時間の節約  
 最小限度の労費  
 その他あらゆる点に於て理想的  
 であります。市内有数のテイント  
 レリアで使用せられ多大の好評  
 を受けて居ます



**CHAGABUGO 599** U. T. 37, Riv. 4300 4302 **BUENOS AIRES**

西語欄開設に際して

讀者諸君に告ぐ

一九二四年五月廿五日、本紙創刊以來既に十星霜を経、其間幸に大過なく今日の盛大を致すは是れ實に愛読者諸君の熱誠なる後援と支持に依るの外なきを痛感し茲に改めて満腔より感謝の意を表すものである。

既に本紙が創刊に際して宣言せしむる如く、社会に於ける言論機關として立つ新聞は社会の明鏡でありぬばならず、即ち現実を起り来る社会現象を迅速明瞭に報道し且つ正しき批判をも加ふべき物に軽かりざる責任を帯ぶる者なりが故に常に明鏡止水の態度を持ち事物の姿を率直に且つ正確に事實は事實として紙面に寫し出さなくてはならず、而して一度紙面に現はれたる記事の如何は以て直ちに社会に甚大なる影響を及ぼすものなる事を想像する時、吾人新聞業に従事する者の責任の如何に重大なるかを痛感せざるを得ない。爾末本紙が徹々たりと云へる重なる邦字新聞として十年を重ぬたるが、邦字なるが故に單に在亞同胞に對してのみならず、

つたのである。然し本紙が唯單に同胞の爲の存在であつてはならず、一歩を進めて吾人の思想を亞國人に知らしめなくてはならず、即ち彼我に於ける言語、風俗、習慣の差異が稍もすれば意地の疎通を欠かんとする虞なき傾向をせしめず、若し吾等の愛を一掃するを得ば日亞西國家及び兩國國民の交誼を益々深からしめ相互に有益に導く事は明か不事である。若し本紙をして此の重大なる使命の一部をせめても果たさしむるとせば西語欄を設くるが如きは其の一方の手段にして既に本紙創刊号にこれを力説しておいた、新聞人として當然負はざるべからざる此の責務を果たさんと爲め、爾末、計画せらるる如何に力にして思ふに任せず不本意に下らざる實現を見せかつたのである。漸く今西語欄開設して愈々刀難を排し此の重要にして意義ある使命を貫徹するため背水の陣を張り断々乎として実行に着手した次第である。

若し其れ西語欄を設くる事が前述の如く吾人の重大なる使命の一環を果すために役立ち且つ有意義の事であるとせば吾人は次に進ぶるが如き見解を持つる者である。即ち眞の日亞親善及び其融合を深からしめ又極東に立つ我日本帝國の眞姿を我等日本人に對する誤らざる認識と正確なる理解を得せしむるに

便あり、尚進んで兩國の文化的接觸を深からしめ、又日を加ふるに從つて益々旺盛ならんとする日亞通商貿易上に於ても相互間の便宜に資するものなる事を確信するものである。特に租界は重大危機に直面し愈々三五六年の危険期も正に迫りんとする此際、嘗て滿洲事變勃發當時に於けるが如き認識不足に依る大なる誤解を招きせざるやう今より用意を必要とする。日本が眞の世界平和を願ひ正義人道を大本とする神國なる事を此際亞國人に充分知らしむる必要を切實に感ずるのである。

我同胞入亞以來既に三十年に達とも其數五十年を算するに至つた。從て亞國生れの子に世も益々増加しつゝ、あるは誠心喜ぶべき現象であるが唯遺憾とするは吾人二世が日本の子として其の多くが西語以外には殆んど日本語を解し得ず、又父母の祖國たる日本帝國の存在及び如何なる國体なるかを知らざる事である。其原因として挙げれば種々の原因が二世の父母たるや未だ以て未だ戦苦闘を続け漸く今日に至る迄に依り得たのであつて其間二世教育の暇も機關さへなかつた事等が遺憾下りその原因として認めざるを得ないものである。此の欠陥を補はんがためには西語の習を解するが二世等をして西語欄をよりよく利用せしめ日本及の子として

農相辭表提出... 確実なる筋の報道に依れば今農務大臣は辭表提出せらるがフスト大統領日年末返留任を勧めたりと

ともならず、最近に於ける同氏の著書(西語)併て在亞同胞の西語研究の一助ともなり、事望むものであつて我々が日、常、諸外國人と併し活動しつゝ、ある以上日本及日本人に對する正しき認識を彼等に与ふる義務あり、其れが予備知識を得んがためには西語欄を熱誠誦吟しおく事は必要であり又好参考材料たるべき事を信するものである。

西語欄開設に當り最も困難としたるは人を得る事であつた。當國人以上に西語を解し然かも時事に對する鋭らざる批判を下し得る明晰なる頭腦の持主たる事を必要とする事は勿論優れたる人格と卓越せる識見を具備すべきことである。此處に關し吾人は開設前に最も苦心したる次第であるが幸ひに好適の人士を得たので今西語欄の運びに至つたのである。それは本社西語欄編輯長として迎へ得た既に入も知る同胞先輩の先頭者たる元老棟業實業英人である。

◎店員入用  
眞面目なる青年  
希望者は自筆履歴書持参  
来談あれ  
市内ベルグラトリ街一四七〇  
原商店

商船着発日収  
さくすとす丸  
大阪商船会社

内外時報

サール問題に關し  
独、佛の協定成る

来る一月十三日施行さるべきサール住民投票問題に關し、独佛の意見一致、西國大使はローマにて開かれたる國際聯盟サール問題研究委員會に於て條約を締結するに及んだ。独は其れによつてサール

住民が投票により独乙に帰服する場合は独乙はその賠償として九億法を九五%は現金、五%は石炭を以てフランスに支拂ひ且つ同地住民に對し政治、宗教、社会、經濟に亘つて都市民同様の保証を與へる事を約してゐる。尚投票期に於ける同地方の警備に關しは英伊和よりなる二千の憲兵隊が組織され此れに當る模様であつて独佛は軍隊を派遣し、いふと云ふ事に一致して居る。

スペインに  
共和制反對の声起る

スペイン王黨、右翼黨は軍部を擁護し、中央集權、共和一致の独裁政體樹立を目的とする新政黨を組織すべしと共和制に對して始めて公然反對の声を挙げた。カルボソ、テロ、アルテサ、グアタルホ、セネ、前駐亞大使ラミロ、デマエツ、等が其の主なる者である。

ソ聯政府官吏に對する  
テロ行動組織人員六名を射殺

(モスコ、六日) 共產黨政治局長セルゲイ、キーロフの暗殺事件に一大衝動を與へたソグエツト政府は十二月一日新に中央執行委員會令を公布し死刑即行を決定したが右法令に基き五日モスコ、及びレニングラントに於て聯邦最高法院軍事裁判部に於てソグエツト政府官吏に對するテロ行動組織人員を各

既二千名を國境外に追放した。此の報に接してハンガリー、奧國は涕瀟し、遂に政府は二國宛に抗議を發するに至つた。聯盟ではハンガリーの求めに應じてサール問題決定を緊急會議を開き、之れが解決に力める筈であるが兩國間國交は断絶しかねまじき状態にある。

連勝のバラグアイ軍

(アスンシオン、六日) バラグアイ軍はアルゼンチン、ボリビア、パラグアイ國境に近きビルコマ、ヨコ河、北、方、の、クルレン、グ、要塞を陥れ、ボリビア軍を追撃し、つ、あり、同、要塞引上、げ、の、際、樹、林、を、放、火、し、て、退却せしめ、ボリビア軍はベニヤラン、將軍の命によりクルレンに統く、要塞トルビグ、ニ、イ、も、放棄し、石油、地、帯、防、備、に、全、力、を、注、ぎ、横、様、で、ある、尚、聯盟の、協、定、條、約、案、に、對、して、は、ボ、リ、ビ、ア、西、國、政、府、と、も、目、下、研、究、中、で、あ、る、と、の、旨、を、壽、府、宛、に、打、電、した。

邦品進出

チリに於ける

(サンチアゴ、三日) 農務大臣はチリに於ける日本品進出が外國品を駆逐するのみならず國産品をも圧倒せんとする勢あるに鑑み、其れに對て目下詳細に狀況調査中であるが、政府は先日本農産物聯盟會長の顧問を受け日本農産物の進出を抑制し、同業者の驚愕とに對して聴取する處があつた。本年に於ける海品のチリ輸入を見らるに、結、核、の、海、門、に、於、て、増、額、を、示、し、て、居、り、日、本、品の、廉、價、亦、一、例、を、挙、げ、ら、れ、ば、歐、米

JUGUERIA  
"TORRO"  
EL REY DE LOS JUGUETES  
CORRIENTES 635  
U.T. 31, Retiro 3754

お子供様の玩具を御買取りの節には價格低廉在庫品豊富

トコロ玩具店

\*クリスマス申請玩具及日本製の玩具も多量取揃へて居ります。  
\*カタログ進呈致します。

品の價格二万四千ペソに相當する自動車七千五百ペソに販賣せんとする程である。

◎フルドバ州大農場に於て元氣ある青年を求む  
(但し東北、或は北海道の産) 委細は本社へ同の合せられたし

◎お辨當販賣  
一人前一ペソ  
明日の沖繩海協主催の大ピクニック場内で販賣致します。何卒御引立を願ひます。  
村武、山本 食堂

◎貸間  
壁紙判り替へ、日向り良し家賃低廉、日本人紳士方に貸したし。  
Florida 929

御案内  
俸給、各位益、御清神の故奉賀、味者来る九日(日曜)午時参時より在亞日本人會館に於て本校第五回卒業式並に賞状授与式舉行尚ほ或後児童學藝會と同催可致矣同何卒御出席被下度此後御案内申上要  
昭和九年十二月五日 敬具  
各位 在亞日本小学校

野球リーグ戦

試合日割決定

既報の如く新野球協会リーグ戦は、明九日より開始、右の如く試合日割が決定された。尚YMCAは未だ正式加入決定せず、...

日本小学校卒業式

日本小学校五年卒業式並に賞状授与式は、明九日午後三時より日会講堂にて挙行する事になった。...

花卉園藝同業組合 新旧役員合議會

去る五日花卉園藝同業組合新旧幹部二十一名は科亭十島に於て合議會を開催した。組合規則不備の...

さんとす丸入港

商船さんとす丸は昨七日午後八時、同船にて来港の同胞は、如く...

国際文化振興会派遣

東京帝大文化研究所に希ま置く中屋健次氏は、国際文化振興会の派遣により伯國を視察七日さんとす丸にて来港された。

芝崎、吉崎両氏 兼春一月帰朝

芝崎通訳官、吉崎書記は兼春一月十三日出帆のリオデジャネイロに帰朝する事になった。

あうびあ丸演劇会

日会主催のアラビア丸演劇部出演の慈善演劇会は去る一日午後九時より開演、加藤兵次郎の部演劇演劇(註)各試合共午後三時より開始...

昭和十年度上半期商船着発定期表

Table with columns for ship names (船名), departure dates (着), and arrival dates (発). Includes entries like 'うがらた丸', 'アリゾナ丸', 'アラビア丸'.

宝塚劇場顧問 加藤兵次郎氏来亞

宝塚劇場顧問でありタンスの先生である加藤兵次郎氏は、タンゴ研究のため今回来亞、目下市内マイアー街二三番に投宿中。

二世伏見兄弟 優等で進級

ゴルドバ市に於てハサール経営の伏見兄弟の長男秀雄君と次男雄雄君は、市立バウリングクラブの練習試合で、優等で進級した。

死亡 人等

▲首藤商務官去る一日モンテビデオに向小。 ▲高田喜代近々中にナリに赴く。 ▲伏見義雄氏四日コロンビアに返航。 ▲門田雄吉氏病氣全快。 ▲沖田義雄氏去る三日より盲腸炎にてサナトリオカシネジに入院中。

租國電報

政友会の災害予算追加の緊急動議

政府は解散断行の方針を決定

(六日聯合) 臨時閣議は九時半開会。全閣僚は緊張して全部出席。先づ岡田首相より政友会に対し政府として取りべき措置を語つた。高橋蔵相は「政府としては災害地救済に對しては出来る限りの金額を予算に計上したものと政友会主眼の老成八十万兩等とは夢想にも出なぬ。政府は此際手へられたる権能を行使すべし」と強硬意見を述べ、之に床次後藤、岡田の各相も賛意を表し解散断行の方針を決定し、形式的に予算委員会に於て首相より政友会動議の拒絶を表明し、尚政友会が主張を狂げれば予算委員会中にも鉄槌を下すことに決し十二時散会した。

(六日聯合) 予算総会は午後二時十八分に至り漸く閉会されたが岡田首相は政友会の緊急動議に對して左の如く政府の所信を述べた。「災害対策、區救事業に對しては元より深甚の考慮を拂つてゐるが、才であつて現に要求し又は要求せんとする予算を以つて之に処せんとしてゐる。最も今後事實上に別し眞に必要を施設に關しては考慮するに若くない。併して現に審議されてゐる九億五千萬兩の予算は最も急を要するものなるに付き、速かに審議を進められん事を望む。併して去る四日民政党の本藤野大君の質問に對しては右に述べた如く依て御諒承願ひ度い、尚吉谷君の質問に對しても同様である。斯く予算総会には各派の態度決定のため午後五時迄休憩に入つた。

政友、強硬自重の一派に民政は政府支持に決定

(六日聯合) 政府は予算委員会に懸む態度を決定したため速かに予算総会の開会を要求し吉田書記官長は六日午前十一時十分八交官室に於て島田等委員長と意見、予算総会の即時開催を要求したに對し、島田は予算委員会中午後一時より閣議に於てため外決した旨も汲山あるうで閣下寄り集はしてゐるかか、閣議は午後二時と述べたが予定の一時になつても更に二時になつても開会するを得ず別項の如く十八分に至り閉会されたが之より政友会は党内態度を決定のため党内の多角的刊物は行はれたが政友内閣は強硬、自重の路線に於ては、政友の専断を攻撃しつゝあり党内情勢は頗る複雑化して浮地たるものあり、幹部も之が処置に對して苦慮してゐるか

此の方面から一派の妥協気分が醸成され、一方民政党では代議士会を開き政友動議に對する態度決定に當つたが政友の態度に不満を述べ、連繫緊要を主張する者多く政府支持を決定した。

下院本会議 名川前道鉄政務次官 小原法相を追及

(五日電通) 下院本会議は午後一時二十分より開会。直ちに日経に入り上田金次郎、都計島中改正案に付き経過報告をなし之を可決し、斯く人権保護緊急質問を緊急上程。名川、一登壇、小原法相は裁判が確定せしめよう結果を予断す。小原は口吻を弄してゐる。判事は判事たるが、何のたりに事件が公判に廻れば、之を予断する言辭を弄するが、之では無理に判事に事件を公判に廻す意思ありと云ふも仕方がないまい、と云ふ。傍聴者の苦衷ありと断言すれば、政友会内閣に依り、小原法相登壇すれば、寫眞を懸つて發言出来ずしは、立性生、曉て法相、決田君への答辭が形式的なと云はれるが、予審中政友会を云ふ、公判に於ては自ら明瞭をせよ、と述べ、政友会又もや、更に法相、本件知事に對し傳達の手続きを取つた。

忘年会、新年宴会 特別御勉勵致します 何卒御下令之程願ひます 日本御料理

坑夫遭難を聞召され 西陛下御内帑金を御下賜

(五日聯合) 天皇、皇太后陛下は去月廿三日長崎県松島郡坑澤水のため五十三名の坑夫が遭難したる趣を聞召され御教諭の旨召し、以て五日御内帑金、金一対下賜の御沙汰あり湯浅宮相は直ちに同景知事に對し傳達の手続きを取つた。

華府條約廢棄通告後 松平大使帰朝? (二日電通) 云田外相は日本政府の廢棄通告で予備金商が停止されし際は今後の對英外交工作打合せのため松平大使を帰朝を命じ、帰朝後、歸任を肯んせざる場合は已むべく交渉、其の候補には重光次官、芳次郎吉、吉田茂の諸氏が有力視さる。

公証人 民事相殿、商事、財産担保、土地管理

亀甲萬醬油着 一樽十七ペソ 中川商店 市内スアレス街一三〇。電話(三二)バラカス〇八六九

madaya NISTA ia 4778 Devoto 1226 日本式あんま 鍼灸治療

品質本位 仕立入念 八十五ペソより トロ口高等洋服店 市内サルミント街六五四

654-SARMIENTO-654 U.T. 35, LIBERTAD 1392 B. AIRES

此の広告切抜き御持参の方、限り一割引致します

### 華府條約軍縮廢棄 廟議で正式決定 海軍當局の意見

(三日聯合) 華府條約軍縮廢棄は三日の廟議で正式決定したが右八に關し海軍當局は次の如く意見を表明した。

條約の廢棄は帝國政府の公正な當り軍縮方式確立に伴ふ當然の帰結であつて既に九月七日の閣議で原則を決定し又統帥事項の手續も了し外務當局は於て外交上之が通告決行の最善の時機を見極めてゐたもので茲に内外の準備完了したつて本日茲に廟議で可決して秘密院に御諮詢を仰ぎ最後の憲法上の手續を遂行する事になつたのである。併して條約の廢棄通告断行は廢棄案の目的が達成され、眞に世界平和の目的に副ふ軍縮新協定達成のための第一階梯に過ぎず、通告後と雖も帝國政府は從來と變らぬ列國と共に軍縮のため効果的の折衝を継続すべきは論を待たない。

技術的細目に付き  
日英米代表の折衝  
日米の歩寄りは依然至難

(三日倫敦) 米國代表部が現行比率國執の強硬態度を固持しつゝ、頻りに打ち切りを揚言してゐるにも拘らず海軍予備會議は才七週より愈々技術的細目に付き日英米三國代表間に多角的折衝が行はれてゐるが現在基調となつてゐるのは所謂英國政府の和協私案で特に、一各國の保有兵力を自主的宣言の件、一復的制限條項の内容に付き事關的討論が續けられてゐる。英國政府としては自主的宣言と別に各國保有量の最大限を設定する事には敢て反對せず、此案に付て代表の意見が一致してゐる様子だが保有量最大限の数字に互つては英米西國の主張が凡て二百萬以内の数字となり徹底的縮減を期する帝國政府の軍縮基準方式と距離をこゝと遠く若し英米兩國に抵抗して均勢の實現を計るとすれば帝國政府としては相当限量の軍備擴張を必要とする結果となる試みで此英日本間の首肯し難い処である。其他復的諸問題に於ては山本は既に今度トワイニールド提督と金談を遂げたが次回は難物の米國代表のスタンドレー提督と余人を交へて懇談の形式で一騎打ちに乗り出す取返で既に山本代表は同提督の意見を見込んでゐる。然し米國代表部では名目的均等より先に、英の保有均等には全然反対でクリスマスは本國で迎へらるゝと放送してゐる位だから日米兩國代表の歩寄りは依然と至難である。帝國政府がワシントン條約を廢棄すると同時に

金席仕出し  
御定食 千鳥  
市内バルカレセ街一四七一  
電話(三三)アベニダ四八八七

打ち切りを予想された全商  
日本の廢棄通告時機を疑り  
三國代表間に統行  
米代表部の見解表明

(倫敦六日) 松平代表は六日サイモン外相と會見後の方針に付き協議を遂げざる事となつたが其後確固するに米國代表部としては必ずしも即時會談打ち切りを主張せず四日の英國代表との會見に於ても大體次の如き見解を表明した。

「ワシントン條約の廢棄は予備會議とは直接關係が深いとしても廢棄の手續が重大なる事は疑ふ余地がない。一俟りに廢棄通告を遣うせよと英米の効力が發生するものは早に明年一月一日以後通告の邊に日英米の協定に過ぎないのには日本政府が既定方針を理由に會談が進行中を無視して直ちに廢棄を決定する真意を解するに苦しむ。一米國代表部としては日本政府が廢棄通告を猶予すれば必しも帰國を急がず和協の相續に乗り向かう。

右米國代表部の意向に對して英國政府は幾分意見を異にしてゐるが、ワシントン條約廢棄通告の途

HORACE  
FESCR  
ベニヤハニ五番  
エスクリトリオオハ。  
電話(三五)〇九〇五

期方を勧告するものと見られてゐる。デグリス代表も近松平と會見し率直に折衝を困難するものと見られ打ち切りを予想された全商も華府條約廢棄通告時機を疑り、日英米三國代表間に暫く統行されるものと見られるに至つた。

條約軍縮廢棄と  
外務畑の人心刷新

(三日電通) 華府條約の共同廢棄は英米佛伊の拒絶を免けたつて政府は臨時議會の終了次第可及的に軍縮廢棄の手續を取るに決定した。松平外相は通告後我が國國際關係には一時的には緊張を加ふるも何等懸念の要なしと協和外交の本體を發揮し國際關係を調整せんとの計を持つてゐる。尚右に對する準備工作として永井駐米大使の辭任を機会に歐米大使館の要

J. Masu  
Concord  
V.T. Villa  
山田忠重

動を行つて外務畑の人心刷新を計りんとす。内務部長の如し、永井大使の後任には上野若大使武者小路公武を其の後任には徳川正方ナダ公使を其の後任には英大使館の加藤外松を當て又九日歸朝の太田駐露大使も辭意を洩らしてゐる。辭任の際には米海軍總長加藤轉するらしく海軍中少將のホルトガルの笠岡公使も勇退確定しルーマニヤ公使藤田榮介、メキシコ公使堀義貴、オーストリア公使松本直吉にも勇退を迫める意向がある。此の補充としてベルギーの岡本公使駐米大使館の藤井啓三助務官、カルカッタの三宅純輔、パタゴニアの越田純輔等が頻りに轉勤の取沙汰されてゐる。

RESTAURANT  
PAGODA  
Av. P. R. SAENZ PEÑA 614  
U.T. 33 (Av.) 3758  
中華樓餐室  
世界に誇る美味と栄養  
是非一度  
御試食を願ひます

### 武州襲つた暴風雨 農牧の被害甚大

武州南東部は先週連日の如く豪雨に見舞はれ、農牧は大被害を蒙つた。ヘネラルマダリアが郡では家畜十三万頭、マルチキータ方面では約五万頭死傷し、作物は全播種地帯の三十パーセント以上を失つた。ラモスオテロ、ヘネラルギド方面も損害甚し、撲滅で一時は電信電話不通、河川の氾濫によつて武市マルデルプラータ間は交通遮断の状態にあつた。

### 地下電 一時運轉中止

去る四日、コンスタツツシオン、アベニダ、デマゴヨ地下電は市廳より一時運轉中止を命ぜられた。該地下線は落成竣工の初、交通司から諸般に迫りて不備の点あり修理を要すとの注意を受けた事もあり、今迄幸い死傷者は出なかつたが、事故頻々、去る四日午後四時半には、エレノ停留所に於ける脱線事件等あり、市當局も終に此の拳に出るに至つたのである。

### 亞国商工界 賣上税案に反対

三日、亞国商業會所にて商工

### 時報片々

▲ 界の代表者相会し目下上院に於て問題となり居る政府提出の賣上税案に對する商工業者の態度、及び昨年十一月二十八日發布の烏魯奈令によつて輸入商が蒙れる損失の補填運動等に對しては、賣上税案の第一の問題に對しては、賣上税課の商工業に及ぼす影響の大なるに鑑み慎重に考慮せられたとの通牒を各代議士に發し、邦二の問題に關しては政府より烏魯奈令補填方、若くは此に更なる案を得んが爲、委員を任命して當局を訪問させる事に決した。

▲ 往年北米で「サツコロ」パンセツ子の二殺人犯人が電氣椅子に坐せられた当時、世界至る所の共産黨連が死刑を人道に反するものとして「ウエルガ」を宣言した。其の本家本元の赤黨で六十名の農民が「サボターダ」の罪として銃殺されたが、共産黨も社會黨も此の不景氣で「ウエルガ」を唱へてはならないと見へる。

▲ ワシントン海運會議で日本貨物船の運力の優秀は商業上に非ずして其の目的は他にありと説明した。北米貨物船の平均速力は十哩であるに日本船は十二乃至十六哩に達し到底貨物船として維持不可能である。日本の商船は即時巡洋艦となり、漁船は豆水艇に早変わりすると心配する北米、成程日本の平等要求に賛成する筈は正し。

▲ 二三日前の「ラ ナシオン」紙に滿州行商長結婚花嫁隊の寫眞が麗々しく出て居た。此も北米資本の新聞に出て居るがと思へば驚愕が甚い。寫眞結婚も考へ物だ。ダールレーナ、ノルテで花嫁隊が御覽極と御對面、安此の船で歸るわいと泣き出したと云ふ話もある。

▲ 「ラ プレンサ」紙数回下りて極東貿易に關し社説を以て當局の不熱心と親英畏相の口約不実行を責めて居る。此の機會を利用して日亞貿易發展策を講ずべし。

藝術味豊かにきつこ  
お気にす様お寫し致します  
御家庭に集會に其他  
一般寫眞の御用金種々件  
**寫眞 寺川正人**  
複寫引伸し商業寫眞は  
持し廉價に御注文に應じ件  
Castro Barros 334, U.T. 45, 4253

INSTITUTO MEDICO  
"BROWN"  
▲ 血液の疾患 ▲ 生殖不能  
▲ 梅毒、尿道の疾患  
▲ 婦人病 (特別診室の設備あり)  
◎ 各種専門医担当  
デアテルミ、X光線、紫外線  
診察料ニベソ  
診察時間 午前十時—十二時  
午後三時—九時  
\* 日曜、祭日は午前十時より十二時迄  
ALMIRANTE BROWN 1039  
U.T. 21 (BARRACAS) 2554

Dr. J. LUTZKY  
ALSINA 2474, U.T. 47, 5329  
オニ療養所  
医師  
肺臓、心臓  
胃腸、呼吸器  
喘息専門  
日本人の顧客数多  
あり絶対の信用を  
得て居ります  
診察時間  
午後三時—八時

ホフマン印、フランチャイザ機  
并にカルデーラの修繕  
取付一切迅速廉價に引受けます  
ホフマン会社  
トリビオゴメス  
指定機師  
Carlos Calvo 1159  
U.T. 29, 4564

LA PAMPA  
Gran Deposito de Bolsas y  
Lienzos, Nuevos y Usados  
▲ キンタ用  
▲ 新古ホルサ  
▲ リエンソ  
▲ フンゴ  
▲ イーロ  
▲ 其他一切の御  
用命に應ず  
値段格安  
泉中村商店  
CABILDO 286, Avellaneda

内務省免許  
助産婦 羽生糸  
産婦人科専門医 鶴岡ヒサ  
産室の設備あり  
宅診 午後一時より九時迄  
市内メニコ街エの四二  
デハルタメントオハ号  
電話 五三三八



# 青春の歎き(5) 江霧生

矢ふべからざるものがあるから、僕が貴女の

陽三は其の場から直ぐ自分の船室へ引返し一詩を賦した。  
衣錦歸郷非我志 我愈斯謂至善善  
護而何同胞之判斷 不可庶衣錦歸郷。  
而して此ま前の讀書家への忠告としてA三号室に投込み、自分も心細やかに甲板へ上つて行つた。

陽三は其の場から直ぐ自分の船室へ引返し一詩を賦した。而してその后改めては入港人には異変がなきかを知る為、返信を一日千秋の思いで待つてゐた。

月日は廻つて長き航海も後数日となつた。陽三は悦んだ。「我が亞国上陸は新生活への誕生である」と。憧憬の亞国に港に着いたのは其の通りだつた。お、神よ、希望に燃ゆる青年、平和の戦士に幸を與へ給へ。陽三の骨は鳴り肉は躍つた。然し悲しき哉、運命は呪しきもの、自然は皮肉なもの、折角の彼の希望も哀切れんとし居た。何れも同じ不景氣に彼は歎息した。而して来るべき春の餘りに遠きを悲しんだ。然し陽三は失望しなかつた。絶へず彼を慰め勵ますもの、其は彼女幸子の存在であつた。彼は無學着亞の報と共に「何れも同じ不景氣だ。今までの望みは餘りに虫が良すぎた。だから少し落魄した。然し貴女の存在によつて彼の落魄は尋られず、誠に貴女の存在は僕にとつて快くべからざるものがある、

光陰は流れる水の如く三ヶ月、五ヶ月、陽三は悔まされた。次々と二三通の手紙を出したが、やはり返事口なかつた。絶望！彼は叫んだ。彼の胸は氣も狂むればかりであつた。總てに於て彼の味方たる彼女がどうしたのであらう。あんなにまで誓つた彼女が病氣？結婚？いや信ぢらぬ。彼は急に今までの緊張を失つてしまつた。憂鬱の日が続いた。果は女の行かない、風、墜落の淵に身を墜ぶ様に居た。彼女への愛が大きかつた。何れも同じ不景氣に彼は歎息した。而して来るべき春の餘りに遠きを悲しんだ。然し陽三は失望しなかつた。絶へず彼を慰め勵ますもの、其は彼女幸子の存在であつた。彼は無學着亞の報と共に「何れも同じ不景氣だ。今までの望みは餘りに虫が良すぎた。だから少し落魄した。然し貴女の存在によつて彼の落魄は尋られず、誠に貴女の存在は僕にとつて快くべからざるものがある、

来しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

その後の陽三は「お、我も墜落した」と苦笑し作りも作り、カフエー、さうは女子供の行けない処を迷つてゐた。幸子が万里眼の持主で此を知つたら「夫よ、何処へ行くと歎いたであらう。陽三の愛は恨みと愛つた。あれまで約束して

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

返しておいて今更何と云ふ事だ。返事一つも書かないのか。俺の渡航もその一つは汝を得んが為であつたのだ。破約者奴！今日見ても、恨みは俺に返りて来ない。俺は不だに相手に對して未練がある証だ。終には俺となつた。然し彼女を恨み侮蔑すればする程僕は苦悶した。貴は幻に夜は夢となつて彼女の面影を見出すのであつた。書の業務に疲れて眠れば餘りにもしほらしい純情な優しみに充たされた幸子が泪に濡れた瞳で傍に立つてゐるのではないか。「お、貴女は何時の間に陽三の夢から醒めて矢張り彼女は僕を愛してくれているのだと思つた。が次の瞬間今度はあの教師の弟と結婚してゐるのだらうかと思ふ時、嫉妬は男性として持つてはならない。貴女は男の子と知り乍ら嫉妬を感じさせるを得なかつた。其は誰しもが一人の彼女を愛し、その愛を他人に奪はれる時に感ずる情ではなからうか。恐ろしく男性である限り他人が他の男性に引奪れる光景を思ふ時、ムラ」と次回し、嫉妬の念に驅られたい訳にはゆかないであらう。陽三は置は幻夜は悪夢、眠りも醒めずも彼女の幻を追い、幻影から逃げられる今の自分をどうにかして彼女の夢を忘れぬかの過去を忘れて晴々しいものにならうと焦つてゐた。然し忘れぬと焦る程、

**MEDICAL NEWS**  
28--SUIPACHA--28

▲ 淋病梅毒  
短期間で有効確実療法  
治療代は月賦十ペソ拂の便あり

▲ 肺結核新療法  
治療代は全治療に償ひます

▲ 婦人科 X光線科  
▲ 電氣治療科等

◎ 各科専門医十名の診療科三ペソ  
◎ 西、英、佛語を話す女医が居ます。

高級洋服を  
実費で調整致します

**内藤洋服店**

◎ 電話で御一報次々参考致します  
市内カビルド街一七七八  
電話ベルガラ(五三)〇九三三

**G Gonzalez**  
MORENO 1357. U.F. 38, 5923

ホフマン印フランシヤ機  
並に各種燃料の  
カルデーラ  
廉價に取付修理  
其他一般機械の修繕  
の御用命を願ひます

前ホフマン  
会社指定 機械士  
G Gonzalez

コルドバ州

カラムチータ盆地に於ける

林檎栽培 (一)

コルドバ市 大島俊一

州農事試験場は一九二四年の創立で丁度十年最初に植へた林檎が愈々多産時代へ入つた。昨年度千個位木箱になつてゐるのを見ると実に見事である。面積十六町歩、桃等も植へられてゐるが主作は林檎である。種類も可成り多く樹形も種々に仕立て、あつたが最も該地に適した樹形はコッパセラグアYである。樹形も根によつて葉もY形である。雲の多い島でせう。同場当時係人技師の設計になつたもので樹形はコッパセラグアYに仕立て、あり、結果の多い島樹形が輸小支柱を幾本もたてればならぬ有様であつた。各樹間は五米にしてあつたが十年にして既に狭い程で樹幹の長い林檎であるから少くとも七米は必要である。免が多いので周囲に五十種の高ヤシアラングレテヒドが張り廻してある。場長は是非必要であると言つてゐたが日本等では木の根本に牛蹄を塗り付ければ良いと云つてゐる。又ポプラーを植へて防風林を作りねばならぬ。此は挿木

で定植して行けば良い。少しく間隔を詰めて置くと林檎が出始めると交互に切つて行つて箱用に用いる事ができる。餘り詳細に値つては本論が

抜けたら心配が有り。貴重な紙面を費すのも自分の本意でないから該地に於ける林檎栽培事業の成否に於て其の主要点を調べて見ませう。第一はその土地が栽培に適してゐるか居ないかであり、第二に生産された果物を消費地まで運搬して如何に賣れるものであるか。運搬費は如何程に上るものか。第三に消費地としてのコルドバの將來等を考へれば良いと思ふ。勿論コルドバ市の産出もあつたが今のコルドバのみで充分だ。

私の見た限では勿論リオネグロ程には行かないであらうが産地であると言ふ事は事実である。値段は一箱七、八ペソである。上野品は十二ペソ位までしてゐる。一箱の数は八十個位から二百個位まである。チグレのガラスシアは四ペソから五ペソが普通である。勿論此は生食用ではない。運搬費は噸当り三十ペソ内外であるから一箱五、六十セント其他カストを見て八十仙以内であらう。

私はコルドバ市場目的で良いと云つた。其はカラムチータ林檎の

出る時期は何百と云ふ。避暑客がコルドバ山に入つて居る時であるからである。又避暑客が歸る時期には肺病患者が入り込んで来る。林檎はその食料として依て肺病者には理想的の果物である。運搬の困難上カラムチータは丁度第一番早く出る地方である。メンドウ、サンファンに相当栽培されてゐる様であるが商販がなるとは云へないが其には生産者が協力して品質の向上、生産費及び運搬費を低減にする事にある。左に試験場の統計によつて該地方に適する三種の結果成績を示す。

- Delicias 200 400 11111111
  - Bar Davis 400 1000 11111111
  - Rosa Hea 60 280 11111111
- 場長の話によると多種類を作る事は弊物でデリシオサ種を主体として栽培すれば良いとの事であつた。私の行つた時にはブレンヘン種は殆ど終つて居りベンダビス種が盛りでデリシオサ種は未だ若かつた。味は粘質を帯びた所に植へてある鳥が幾分か酸味が多い様であつたが風味は実に佳かつた。
- 一家族の耕作面積は十四歩位が適当でありませう。土地資本と経営費を合算して餘程経済的ならば約三十ペソ乃至三十五ペソを必要と見ます。勿論三ヶ年目から収穫期までは副業によつて生計をたてると思つてあります。土地

資本は一町歩百五十ペソを計上して居りますが其は年と共に上騰するものと考へておきなければなりません。

和共農業方面に競争してゐる者には最も重要なものは土地である。自分の土地です。経営の才があり経営費があつても、土地資本を持つてかゝる徳資本に餘裕のある人は殆どないと言つて良い。其處を何とか極度事業に理解のある資本家に援助して貰ひ度いものである。然すれば今の場合でも資本は約半分が良い。事業が確定であれば資本家に迷惑をかける暇もありません。

産 産  
ミカエラデ  
マフィア  
高見沢さま  
産室の設備あり  
往診宅診随時  
POZOS 1341  
U.T. 23, 7284

日本菓子製造販賣  
松福堂菓子店  
店主 松尾好一  
市内サンホセ一街一五九一

**RODOLFO V. PONS**  
ALSINA 631 U.T. 33-1880

税関手続人  
税関手続人登録  
許可番号  
(三三六六)  
確実迅速  
廉價は永年同  
日本人顧客間に於  
ける好評です。  
出願の除は是非御  
用命下さい。

**日本書籍 雑誌 取次 販賣**

講談物、思想物、文藝物、書籍、少年少女向各種の雑誌、新聞 (毎号自宅に配達致します)

**中川書店**  
Rosaducta 3034  
3 de Mayo 723 22  
U.T. 62, 3428


**Dr. Oscar Rodriguez**  
MONTES DE OCA 1979  
U.T. 21 (BARRACAS) 0745

日本人の方には特に親切  
丁寧  
御便宜を計り  
ます  
ドクトル  
オスカル  
ロドリゲス

SIERRA DE CORDOBA  
**Hotel "PLAZA"**  
 DE  
**Juan Kawabata**  
 QUINTA JAPONESA  
 UNQUILLO (F. C. C. C.)

コルドバ州  
 ウンキージョ  
 ホテル「プラザ」  
 川端 嵩

御下宿  
**末廣館**  
 市内ペリシナス街十九番  
 電話(三三)フチルゼン  
 五七三五番  
 尾崎幸千代  
 U. T. 23 B. ORDEN 5735



**Mate**  
 los pulgones

de los rosales, crisante-  
 mos y demás plantas de  
 su jardín, frutales horti-  
 zas, etc. utilizando  
**Sulfatina O. W.**  
 que los fulmina en el acto  
 sin dañar ni manchar las  
 plantas.  
 El tarrito para 100 litros  
 de agua \$ 2.-  
 Pida folleto con instrucciones



ARTICULOS RURALES  
 ALAMBRES  
 MADERAS y MAS

**HARTENECK.**  
 S.A.  
 Perú 399-B. Aires

**松堂商店**

豆腐 こんにやく  
 製造 販賣  
 多少に不備配達致します  
**松堂秀正**  
 市内カリフォルニア街二一八四  
 電話(三三)バラカス 一四〇一

Tintorería "EL TOKIO"  
 DE  
**ADOLFO K. OTSUBO**

義喜坪大  
**Rivadavia 5202**  
 U. T. 4738 Caballito

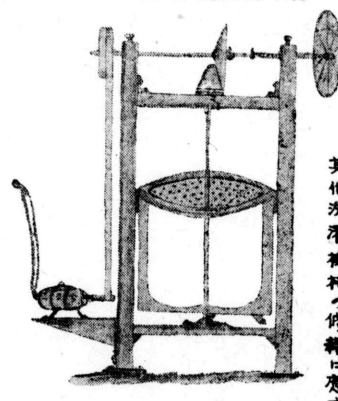
**CAFE "TOKIO"**  
 DE  
**M. K. Miura & Cía.**

Casa Central  
 MERCEDES (Ba. Aa.) - U. T. 191

Sucursal  
 JUNIN (F. C. P.) - U. T. 198

カエ 東京  
 三浦 商店  
 本店メルセデス市  
 支店フニン市

**A. MENDEZ**  
 TALLER MECANICO  
**Calle VERA 737**  
 U. T. Darwin 1108



カルボンナフタ又はガス洗機  
 乾燥機(手廻し又はモーター)  
 其他洗濯機械の修繕に應ず

**CAFE y CERVECERIA**  
 La "SATUMA"

有水武二  
 久松純雄  
 竹内武義  
 加藤吉隆  
**Gral. Hornos 54**  
 BUENOS AIRES  
 U. T. 23 - 0526

自宅出張撮影  
 複寫引伸し  
 如何に古い寫真でも引  
 受けます。  
 市内サルタ街一五八  
 電話リパゲエヤ五七  
**寫真師**  
**佐藤貞則**

**ALMACEN**  
**NISHISAKA**

**Calle Australia 1101**  
 U. T. 2915, Barracas  
**BUENOS AIRES**

味噌 醸造  
 醤油  
 たんあんその他香の物  
 西一報次第  
 配達いそます  
 アウストラリア街  
 一〇一番  
 雜穀食料品商  
 西坂貫太

御旅館  
 御料理  
**昭和館**  
 館主 松本春裕

市内コリエンテス街二五二九番  
 電話(四七)クローヨ 八七六三番

◎清潔・安値・親切  
 カフェ店就職希望の方には特に  
 御便宜を計ります。

**DARUMA TEI**  
**CHACABUCO 770**  
 U. T. 0243, Avenida.

井物一品料理仕出し  
 すし、かまぼこ、饅頭、賣出し  
 定食、下宿料共に値下げ  
 致しました。  
**だるま亭**  
 松田清市  
 チマカス街七七〇  
 電話〇二四三(アエト)  
 出産御禮等、祝の餅  
 作注文に應じます。

かまぼこ屋  
**MURATAKE**

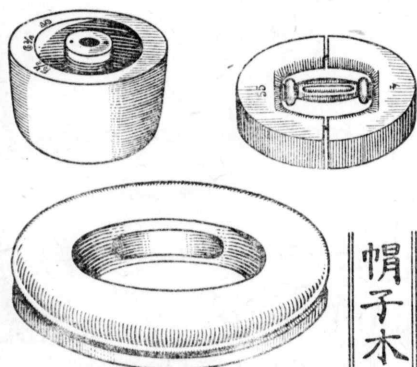
かまぼこの御注文は村武へ  
原料精選  
味は良くて  
値段は安い  
御入用の節は電話で  
General Urquiza 1979  
U. T. 61-2507

**THE NATIONAL CITY BANK  
OF NEW YORK**

Bmé. MITRE 502 esq. SAN MARTIN U. T. 33-4031

日本人各位の種々御相談に應ずるため特に大阪支店より派遣された安野毅一氏が勤務してゐます  
本店 米國紐育市  
支店 東京、横浜、大阪、神戸  
日本  
垂国内 フラサオンセ、フロレス、ロサリオ  
其他世界各地に支店出張所があります

**LUIS GORI Hnos.**  
LIMA 1029 U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントレリアの仕立の上等下等は型番に依ります。仕事に上るには良い型番を使はねばなりません。弊工場は「テララカ」「テラコラ」「アルカロ」「木」製等流行型ありゆり型を最良の市價で供給し、田舎からの御注文にも應じます。

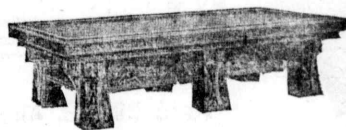
**SEMILLERIA  
Juan Calé & Cía.**

CASA MATRIZ  
123 - PUEYREDON - 123  
UNIN TELEF. 47, CUYO 0065 y CUYO 0066  
COOP. TELEF. 1137, OESTE

Sucursal N° 1 CORRIENTES 3175 U. T. 62, Mitre 1954 C. Tel. 323, Oeste  
Sucursal N° 2 RIVADAVIA 2425 U. T. 47, Cuyo 5998 C. T. 1105, Central

Dirección Telegráfica "CALECIA", Bs. As.  
Viveros de Plantas en Ituzaingó y Liniers (F. C. O.)

**BILLARES  
BRUNSWICH**



Barandas "MONARCH"  
Material preferido en las casas de primera categoría  
VENTA A PLAZOS SIN RECARGO DE PRECIOS  
CANGALLO 1818 - Bs. AIRES  
U. T. 47, CUYO 3577

**CLINICA MEDICA  
CANGALLO**  
Calle Cangallo 1542

Atendida personalmente por su dueño  
**Dr. A. GODEL**

最新式獨乙療法  
淋病——根治療法  
梅毒——六〇六号、九一四号  
婦人病心臓胃腸 各科専門  
肺腎臟神経系統  
◎日本人方には初診無料  
X光線、デアテルミ、血液検査  
診察日 自午前九時 至十二時  
自午後三時 至九時  
日曜祭日は午前中

**BAR Y RESTAURANT  
ASTURIAS  
Y  
BUENOS AIRES**

Cortón y Gómez Hnos.  
25 de Mayo 299  
esq. Sarmiento  
U.T. (33) 3414, 1698.

タンゴ気分、陶酔し、フニスアイレス情緒を味ふためには是非……  
アスツリアス  
フニスアイレス  
の西バーへ……  
◎日本人のモーションを雇入れてあります

**Café JAPONES**

藤田友八  
CHIVILCOY (F. C. O.)

**ALMACEN  
DE NAKAGAWA**

Suárez 1300 - U. T. 0869 Barracas  
日本食料品  
罐詰類直輸入  
アルマセン  
中川商店  
市内スアレス街一三〇〇  
電話(三三)バラカス〇八六九

## ADELANTE Felicitaciones del "Togo" de la Argentina

Buenos Aires, Diciembre 5 de 1934.

Al señor Director de "El Argentin DjiJo".  
Don T. Midzuno.

De mi mayor aprecio:

Con mucho agrado le acompaño la fotografía que Vd. se ha servido solicitarme y quiero que la conserve como muestra del aprecio en que tengo su perseverante actitud, manteniendo por tantos años un diario redactado en japonés, que sirve para mantener en la Argentina el espíritu de acercamiento con su país.

Hace muchos años que mantengo inalterable el culto de admiración y aprecio hacia el Japón, donde estuve casi dos años, durante una época difícil y azarosa para su país y pude entonces apreciar las virtudes extraordinarias de ese pueblo que, a pesar de la desproporción y dificultades, tuvo la energía, la cohesión y el valor patriótico para enfrentar y de vencer a una de las naciones que se consideraba de las más poderosas y temibles de Europa: la Rusia.

Aquel triunfo no lo perturbó y más bien le sirvió de estímulo para continuar perseverando y, con mayor energía, en tratar de conquistar y asimilar lo mejor de aquello que se consideraba la civilización occidental, implantando nuevos métodos de educación e instrucción al pueblo, en las artes prácticas, en las industrias y en el mejoramiento de todo aquello que ya poseía el país, procurando con un criterio analítico sorprendente el buscar de aplicar lo mejor y lo más útil, hasta llegar en pocos años, relativamente, a un perfeccionamiento extraordinario que lo ha colocado entre las primeras potencias mundiales.

Por ese motivo, he sido y sigo siendo un gran admirador del Japón, casi diré un apóstol permanente del acercamiento espiritual y comercial de la Argentina con él, y, al hacer esta afirmación, creo no equivocarme, día llegará para nuestros pueblos en que se cumplan estos anhelos.

Al desearle mucho éxito al diario que Vd. dirige, que estas líneas sirvan también de saludo amistoso a toda la colectividad japonesa que reside en la Argentina y a Vd. muy especialmente.

M. DOMEQ GARCIA



Al "Argentin DjiJo", decano de la prensa nipona en la Argentina y promotor del acercamiento de nuestras Naciones.  
Don T. Midzuno 5/12/34  
A. Domecq Garcia

Las relaciones argentino-japonesas han sido siempre cordiales y cada vez más estrechas, porque la mutua simpatía y recíproca admiración que existe entre ambos pueblos son tan leales como espontáneas. La magnánima hospitalidad argentina es reconocida con gratitud por todos los residentes japoneses en la República y debidamente apreciada por el gobierno y pueblo del Imperio, los cuales, a su vez, profesan viva admiración por este país aún joven que, dotado de grandes condiciones, posee cualidades salientes dignas de todo respeto.

Mas es indudable, también, que tenemos todavía mucho, pero mucho que hacer para que los argentinos y japoneses se conozcan unos a otros como realmente son. Todo trabajo tendiente al acercamiento y mejor conocimiento entre los pueblos es conveniente y útil, no solo bajo el punto de vista del interés económico, sino para vincularlos espiritualmente y fundar la amistad verdadera entre las naciones que así llegarán algún día a la realización de la ansiada paz sobre la tierra.

Para iniciar con este número la modesta sección Española, que esperamos mejorar y ampliar en la medida que nuestros recursos lo permitan, El Argentin DjiJo — (léase Yijó) se propone labrar con toda su dedicación, aportando su parte, al mayor acercamiento argentino-japonés

Nuestro campo de acción es limitado, pues como es notorio el número total de los residentes japoneses apenas pasan de 5 mil; pero al inaugurar esta sección castellana la dedicamos principalmente a los pequeños argentinos, hijos de japoneses, quienes poco o nada saben de las cosas del país de sus padres, con certeza de que ellos podrán servir de intermediarios para comunicar sus conocimientos a sus amigos y compañeros argentinos. Dedicamosla también a los argentinos amigos del Japón que aquí abundan, que leerán y cooperarán directa o indirectamente en la tarea nuestra de divulgación cultural que está inspirada en el noble ideal arriba mencionado.

Saludamos, asimismo, a todos los colegas del periodismo argentino, cuyo progreso maravilloso admiramos, participándoles de esta nueva iniciativa de EL ARGENTIN YIJO, el semanario japonés más antiguo de esta Capital que desde hoy les ofrece la facilidad de vinculación, llevando una sección en idio-

## Japón y la Conferencia Naval

Las conversaciones que se están realizando actualmente en Londres entre los representantes de Gran Bretaña, Japón y los E. Unidos, tienen el carácter de negociaciones preliminares de la próxima conferencia naval que deberá celebrarse en 1935, de acuerdo con lo establecido por el artículo XXIII del tratado de Londres de 1930.

La próxima conferencia tendrá la misión de concertar un nuevo acuerdo enemplazo del tratado de 1930, que dejará de regir el 31 de diciembre de 1936, además de considerar el tratado de Washington de 1922, el cual, a no ser denunciado, continuará en vigor por tiempo indeterminado.

Las condiciones de las potencias de hoy no son las mismas de 1922, que eran las de post-guerra, si bien es dable creer que el anhelo por el mantenimiento de la paz sean, tal vez, mayor ahora que entonces. El mismo tratado de Washington ha previsto la posible necesidad de su revisión, pues en su artículo XXI dice: "Si durante la vigencia del presente convenio, cualquiera de las potencias contratantes estimare que han habido cambios de circunstancias que afectan a su seguridad nacional, con respecto a la defensa naval, las demás potencias se reunirán, a su solicitud, para reformar el tratado de común acuerdo".

Es preciso no ignorar los móviles que sirvieron para animar a los gobiernos Británico y Americano para plantear la cuestión del desarme naval en 1921, ni los propósitos de éstos que parecen haber girado alrededor del Océano Pacífico, para no incurrir en juicios erróneos acerca de la actitud japonesa del presente. Las dos primeras potencias navales han visto la conveniencia de limitar sus armamentos navales en aquel momento cuando las finanzas no eran nada cómodas y porque la situación económica perturbada así les exigía; pero para limitar sus fuerzas, buscaron y consiguieron con su hábil diplomacia, favorecida por las circunstancias, que las demás naciones se adhiriesen en su plan de limitación.

La Gran Bretaña se aseguró de ese modo para no perder la posición de preeminencia como Potencia Naval, pues estando de acuerdo con los Estados Unidos, éstos no tratarían de superarlo; mientras que los Estados Unidos se contentaron por no tener que entrar en nuevos gastos por los armamentos y por la garantía que el convenio les ofrecía por la seguridad en el Atlántico, para poder, en caso dado, utilizar todas sus flotas en el Pacífico. La preocupación principal de ambos era el Extremo Oriente: el Japón que había conquistado un lugar entre las potencias mundiales, seguía y sigue su camino ascendente, y está convertido en un celoso guardián de los intereses de ese lejano oriente.

ma español, en vez de serlo todo en japonés como hasta ahora.

LA DIRECCION

No es el caso aquí describir las condiciones actuales del Japón. Baste con mencionar que ese país está fuerte y se siente fuerte porque la justicia está con él, y la justicia está resguardada por la fuerza que ha menester. La rectitud y la honradez del Japón están reconocidas según se comprueba con la actitud de las potencias en su tratado para con él y merece ser tenida en cuenta la serenidad, la seriedad y la dignidad con que procede el gobierno de Tokio en los asuntos internacionales. No deja de ser un triunfo diplomático del Japón, el hecho de haber sabido hacerse invitar del gobierno de Gran Bretaña, para que enviase sus representantes a Londres para exponer sus pareceres con respecto a la próxima conferencia naval. El Japón tiene, pues, la palabra para rehacer o deshacer el tratado naval vigente.

El Gobierno del Japón propone establecer una regla permanente para el anhelado desarme naval, que deberá estar basada en la equidad y la justicia universal y reclama: El derecho de cada país a la seguridad nacional que da al Japón el derecho de fijar su seguridad y mantener la paz en Oriente y defiende con esta declaración el derecho inalienable de la soberanía nacional que debe ser respetada por todos y en todas las circunstancias, ya que se trata de requerir el reconocimiento de la igualdad de derecho para su armamento naval, de acuerdo con los principios del derecho internacional. Además el Japón reafirma su buena fe, proponiendo la reducción efectiva de los armamentos, según es público y notorio. El Gobierno de Gran Bretaña que conoce mejor al Japón, se da cuenta exacta de las aspiraciones del Gobierno del Japón y, convencido de su sinceridad, está apoyando si no efectiva, por lo menos moralmente, el plan japonés.

La situación especial y única del Japón en el Oriente, que nadie puede discutir ni desconocer, y su expansión económico-comercial en el mundo, son causas más que suficientes para que el Imperio del Sol Naciente requiera la paridad de fuerzas navales para su seguridad nacional, en medio de dos potencias que gozan actualmente del privilegio de superioridad acordada por el tratado de Washington: 5, 5, 3, para Gran Bretaña, Estados Unidos, y Japón, respectivamente.

El Japón no busca pretextos para aumentar su fuerza ofensiva ni pretende reforzar sus posiciones de defensa con sutiles argumentos, como lo hacen otras potencias que continúan fortificando sus bases navales situadas en su vecindad y que constituyen amenazas para la seguridad del Japón. La proposición japonesa, cuya lealtad es reconocida por todos, tiende a imprimir la sinceridad en los procedimientos internacionales. Cualquiera que sea el resultado de las conversaciones de Londres, lo cierto es que dejará grabado en la mente de todo observador, la loable lucha del Japón en pro de un principio del derecho internacional, que ha de ser grato para los amantes de la justicia, libertad e igualdad.

G. YOSHIO SHINYA...

## Política Japonesa

TOKIO, 2 de diciembre (Rengo Tsushin).

Durante el debate en la Cámara de Representantes (Shugi-in) de la Dieta Imperial (Teikoku Gikai), el Ministro de Finanza, Sr. Korekiyo Takahashi, hizo las siguientes declaraciones en nombre del Gabinete:

"Los principios fundamentales de la política nacional que sostiene el Gobierno actual son idénticos a los que tuvo por base el Ministerio del Almirante Saito, y son:

"Las circunstancias porque atraviesa el Imperio obligan al Japón a formular su política de acuerdo con las necesidades internacionales y, por consiguiente, la diplomacia es la base de la política actual del país. Para resguardar esa política es menester cuidar la defensa nacional y para satisfacer esa necesidad es preciso armonizar la finanza con la situación económica de la nación".

N. DE LA R. — La declaración Ministerial que antecede pone de manifiesto la verdadera situación del Japón, que nada tiene que ver con la llamada política imperialista. El Gobierno del Japón se ve obligado a sostener ciertos gastos militares que las circunstancias no le permiten descuidar, pero su propósito es pacifista como lo prueba la proposición formulada en las conversaciones navales de Londres, en el sentido de realizar desarme efectivo de las fuerzas navales.

## Intercambio Argentino - Japonés

Es el tema obligado en todos los círculos comerciales el asunto del intercambio argentino-japonés, que en los últimos tiempos ha adquirido notoria popularidad, debido a la terminación de la tarea de la Comisión nombrada por el Ministerio de Relaciones Exteriores, y presidida por el Almirante don Manuel Domecq García, que elevó su informe acompañada de extensos estudios. Conocida la existencia del informe en poder de las autoridades y enterada de su contenido, la prensa toda de la República ha hecho eco favorable de los esfuerzos realizados por dicha comisión.

Con las buenas perspectivas que ofrecen los mercados del Japón y del Oriente para la producción argentina, confirmadas plenamente por la comisión citada, surgen los comentarios que satisfacen al comercio y a la opinión pública en general, que ahora reclama la acción correspondiente para llevar los proyectos y esperanzas al terreno de la práctica.

Las posibilidades del comercio japonés en la argentina son más que conocidas. El Japón tiene para vender en esta plaza tejidos, hilados, lámparas, porcelanas, juguetes, sombreros, botones, cepillos, papeles, drogas y maquinarias, etc., para los cuales hay buena demanda. Su importación está limitada por las dificultades o desventajas que emanan de la falta de cambios oficiales que están controlados.

Lo esencial para fomentar el intercambio recíproco, es conseguir la venta de productos argentinos al Japón. Se sabe también que ese mercado consume grandes cantidades de lanas, trigo, cuero, etc., además de ser comprador de caseína, extractos de quebracho, huesos, cerdas, carnes y otros artículos de menor cuantía.

Los medios para acrecentar el comercio que aconseja la Comisión son adecuados: facilidades de cambios, propaganda comercial, envío de misiones, etc., y las autoridades nacionales han prometido, según entendemos, prestar al asunto la dedicación que le corresponde.

Al apreciar la buena voluntad y deseos unánimes del gobierno y pueblo argentinos que, animados para cooperar con el gobierno y pueblo del Japón, tratan de estrechar las relaciones comerciales de ambos países, creemos propio, en esta ocasión, reconocer la simpática campaña que realizan a su favor todos los diarios de la República, especialmente "La Prensa" de esta Capital que, con su característica insistencia, le dedica y sigue dedicando preferente atención.



Señor Z. Amari

Conuerdo con mi amigo, el Sr. Mizuno, Director del ARGENTIN DJIJO, a la idea de crear las páginas argentinas en su prestigioso periódico. Esta creación es la necesidad hoy más que nunca, pues las relaciones del Japón con la Argentina están creciendo a paso sólido.

Ojalá que a través de estas páginas nuevamente creadas, los argentinos y los japoneses se conozcan mejor y se acerquen más, y que los dos pueblos lleguen a comprenderse franca e íntimamente.

Con este motivo dedico estas líneas y congratulo del fondo de mi corazón, para que el paso iniciado encuentre el camino y la luz.

Buenos Aires, Diciembre de 1934.

## LIBROS NUEVOS

"Perfiles Japoneses" es el título que lleva el libro que ha llegado a nuestra mesa de trabajo, escrito por el Dr. Albino Pugnalin, ex representante diplomático argentino ante el gobierno del Japón, y editado por la librería Roldán de esta Capital.

El trabajo del Dr. Pugnalin consta de algunas notas de viaje, síntesis de la historia japonesa y descripción de la vida y obra de algunos prohombres de la historia japonesa: Yoritomo, Príncipes Itó y Saionji, etc., con interesantes observaciones del autor, con lo que se viene a enriquecer la bibliografía argentina sobre el Japón.

"Celajes y Horizontes" de los doctores Elvira Fanny Gallegos y Servando A. Gallegos, recientemente publicado, también en esta Capital, es un libro de impresiones del viaje de circunnavegación. No es el primero de tal índole, pero es una obra simpática, que mantiene latente el interés del lector, del principio hasta el fin. Su estilo bien femenino, denuncia a la distinguida escritora. Trae descripciones interesantísimas y atinadas observaciones, llenas de sentimientos, que transmiten al lector las impresiones sentidas por los autores.

En síntesis: es un libro cuya lectura amena, hará revivir a los viajeros sus propias impresiones. El Japón, ocupa la mayor parte del volumen y trasunta la admiración y simpatía que sus autores sienten por el Imperio del Sol Naciente.

## Cultural Argentino - Japonés

Circulan las invitaciones para la Asamblea General Ordinaria de la Sección de Intercambio Cultural Argentino-Japonés del Museo Social Argentino, que tendrá lugar el día 12 del corriente, en el local del Museo, Viamonte 1435.

## Sobre la amistad Argentino - Japonesa

Manifestaciones en un discurso de S. E. el señor Dr. Carlos Saavedra Lamas. Mi simpatía para con el Japón es tan sincera como profunda, que mis subalternos en el Ministerio lo conocen. El secretario del protocolo que atiende diariamente las numerosas invitaciones de toda índole que llegan, cuando ve una, digamos relacionada con el Japón, entiende que debo aceptarla y prepara la respuesta correspondiente, sin esperar mi indicación...

Pero mi sentimiento hacia el Japón y los japoneses no es sino el reflejo de la simpatía nacional de la Argentina que sabe admirar las condiciones ejemplares del progreso del Imperio, de las grandes cualidades de su pueblo: disciplina, orden, serenidad, laboriosidad, etc.

Las leyes argentinas son magnánimas y nosotros no tenemos ningún prejuicio, ni religioso ni racial, y todos los hombres de la tierra que vengan con buena voluntad para colaborar por el progreso patrio, son bienvenidos. Tenemos así hombres de toda nacionalidad que residen en el país. Los japoneses de la República son bien mirados y apreciados, por su actividad, su inteligencia y la vida ordenada que llevan".

## ECOS DEL CONGRESO EUCARÍSTICO INTERNACIONAL DE BUENOS AIRES

### HOMENAJE DE UN ESCRITOR JAPONÉS

La semana del XXXIIº Congreso Eucarístico Internacional de Buenos Aires que tendrá perpetua resonancia mundial por su gradioso éxito superior a todo optimismo, según la propia expresión del Legado Papal, ha dado al pueblo argentino la magnífica oportunidad para identificar ante Dios la fuerza espiritual que lo anima, a pesar de su existencia en una sociedad aparentemente dominada por la civilización material; y ante los pueblos del mundo, la insospechada prueba de su cultura que no ha podido sino reproducir sentimiento unánime de admiración y de respeto, como lo confesara el arzobispo de París, Cardenal Verdier.

Esta demostración de la cultura general del pueblo, que representa un valor incalculable en el haber y prestigio de la nación, tiene, además, un significado nacional de importancia trascendental que conviene hacer resaltar: La nación argentina, cuyo extenso territorio está prodigamente favorecido por la naturaleza, que posee todos los recursos y elementos necesarios para constituirse una entidad internacional ponderable, no sólo posee riquezas, y organizaciones institucionales que, son modelos, sino que ha sabido formar en su seno un pueblo nuevo —netamente argentino— vigoroso e inteligente, dotado del alma cristiana que es el amor humanitario, fiel a los principios e ideales sostenidos por sus próceres.

La exposición de la fortaleza espiritual del pueblo argentino, tan espontánea como francamente manifestada, ha enseñado a propios y extraños el sólido valor moral que posee la nación, que supera al conjunto de la maravillosa riqueza material del país.

Al felicitar a los argentinos por este descubrimiento que será valorado por propios y extraños, creo mi deber hacer resaltar la admirable labor, paciente y constante de la mujer argentina, que supo mantener latente el fuego del amor cristiano a través de las vicisitudes de la historia, el cual vemos hoy, con júbilo irradiar en todos los corazones argentinos. No en vano le ha tributado un homenaje la multitud, que supo, en todos los momentos y circunstancias de las grandes ceremonias realizadas, la unión y el respeto.

### VIAJEROS NOTABLES

El señor Y. Shudo, Secretario Comercial de la Embajada del Japón en Washington, Estados Unidos, quien permaneció en esta Capital durante dos semanas, en misión especial de su Gobierno, para estudiar la mejor forma de acrecentar el intercambio Argentino-Japonés, partió de ésta el 1 del corriente con destino a la vecina República del Uruguay.

—Por el Santos Maru que entró ayer a nuestro puerto, llegó el Sr. Ken Nakaya, joven estudiante del Curso de los Graduados de la Facultad de Letras de la Universidad Imperial de Tokio. El Sr. Nakaya permanecerá unos meses en Buenos Aires y se dedicará al estudio de la historia que es su especialidad.

El señor Nakaya trae, además, una misión de la Sociedad de Intercambios Culturales del Japón. A su arribo fué recibido por el señor Shinya, Secretario de la Sección Intercambio Cultural Argentino-Japonés del Museo Social Argentino, quien lo saludó en nombre del Presidente del Instituto, Almirante Manuel Domecq García.